

単位: %

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ幼虫	アザミウマ類	備考
ほ場率 (%)	発生ほ場数	1	0	9	1	19	46	21	2	2	総調査ほ場数: 57か所 総調査株数: 1,425株 (調査株数 25株)
	本年平均値	1.8	0.0	15.8	1.8	33.3	80.7	36.8	3.5	3.5	
	平年値	1.9	0.8	48.6	1.1	34.5	59.6	44.6	0.2	5.5	
	(本年平均値/平年値) × 100	94.7	0.0	32.5	163.6	96.5	135.4	82.5	1750.0	63.6	
株率 (%)	発生株数	0	0	22	0	132	328	78	4	4	○今月の病害虫発生状況○ ・うどんこ病の発生はやや少ないです。 ・ハダニ類の発生は平年並ですが、一部のほ場で発生が多く見られます。 ・ハスモンヨトウの発生は増加しており、食害痕が見られるほ場があります。
	本年平均値	0.0	0.0	1.5	0.0	9.3	23.0	5.5	0.3	0.3	
	平年値	0.0	0.0	9.3	0.0	6.7	20.0	9.2	0.0	0.4	
	(本年平均値/平年値) × 100	-	-	16.1	-	138.8	115.0	59.8	-	75.0	
発生程度	平年並	少	やや少	やや多	平年並	平年並	平年並	多	平年並		
概 評		やや少	少	やや少	やや少	平年並	平年並	平年並	多	平年並	

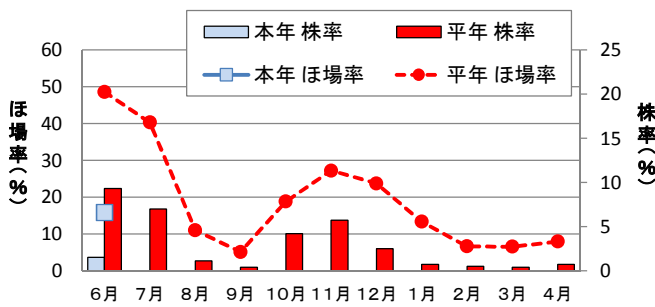


図1 うどんこ病発生ほ場率・株率

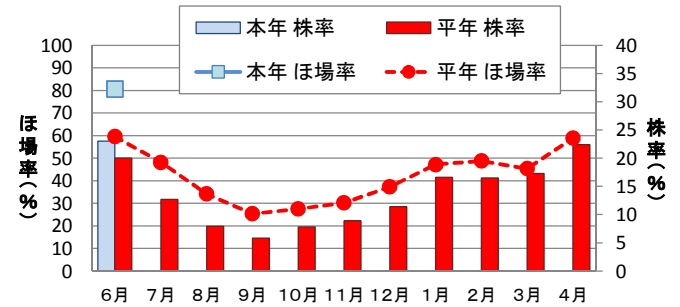


図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

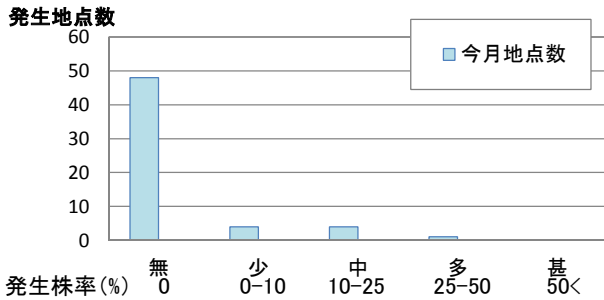


図3 発生程度別の地点数(うどんこ病)

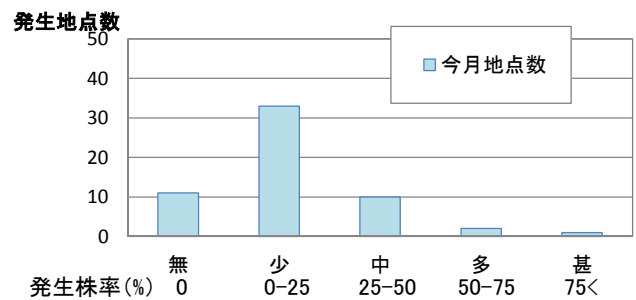


図4 発生程度別の地点数(ハダニ類)

○うどんこ病対策

- ・生育に応じて葉かきを実施し、株の風通しを良くする。
- ・軟弱徒長すると発生が多くなるため、適正な温度管理やかん水を行う。
- ・本ほへの菌の持ち込みを防ぐため、予防を主体にベルコートフロアブル、フルピカフロアブル等を散布する。

○ハダニ対策

- ・雑草はハダニ類の発生源となるため、除草を徹底する。
- ・気門封鎖剤やチリカブリダニ製剤「野菜類(施設栽培)」を活用し、有効薬剤を温存する。なお、一部の殺虫・殺菌剤は天敵に悪影響があるため注意する。
- ・*当センターHPIに「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果」を掲載中。

○今月の技術情報(技術指導班)○(6月)

- ・高温傾向の中、6月8日に梅雨入りとなりました。今後の天気によっては、病害の発生しやすい環境になります。
- ・現在のところ炭疽病の発生はほとんどありませんが、高温多湿下では発生が多くなりますので、ほ場観察と発生予察情報を参考に防除意識を高めましょう。
- ・特に、今年は早い時期から高温傾向にあり、根が傷みやすい環境にあります。根の周りの水が滞留した状態では病原菌が繁殖しやすくなりますので、適切なかん水量や排水の確認などを行いましょう。この時期の適切な管理が、今後の良質苗の確保に大きな影響を与えます。
- ・また、うどんこ病の発生は少ないものの、ハダニ類、ハスモンヨトウ幼虫の発生が見られます。特に、ハダニ類は、本ほからの飛び込み、持ち込みが要因の一つと考えられます。親株床のみでなく、ほ場周辺の環境整備を行い、密度を減らすための防除もしっかり行いましょう。
- ・今後、曇雨天が多くなり、うどんこ病が発生しやすい環境になることも予想されます。早めに予防剤を散布するなど、早期発見、早期防除の徹底を図りましょう。



写真 ナミハダニ雌成虫